

インフルエンザ予防接種を必ず行い、

新型コロナウイルスに備えましょう

新型コロナウイルスは世界各地で猛威を奮っています。そして、インフルエンザと比べてどれほど警戒すればいいのかわかっていません。しかし発生から数か月がたった今、**新型コロナウイルスは感染力、重症化率、死亡率の全てにおいて通常の季節性インフルエンザを上回っている**ということが分かってきました。私たちは、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの違いについて理解しておく必要があります。

①重症化率について

インフルエンザの場合、入院後、症状が悪化する人は感染者全体のなかでも1%ほど。しかし新型コロナウイルスに感染した場合の重症化率は、6月現在で14%になります。そのうち三分の一にあたる5%の患者は、呼吸不全、敗血症性ショック、多臓器不全を併発して極めて危険な状態に陥るとされています。通常の季節性インフルエンザと比べると、単純計算で重症化率は14倍にもなります。

②死亡率について

インフルエンザの場合、死亡率は僅か0.1%。しかし、新型コロナウイルスは、6月現在で2.3%が死亡するとされています。単純計算では、新型コロナウイルスの死亡率はインフルエンザの23倍にも及びます。特に80歳以上の高齢者が感染した場合の死亡率は15%（6.7人に1人）と極めて高く、超高齢化社会である日本で新型コロナウイルスが蔓延した場合、大きな被害が予想されます。

③感染力について

インフルエンザの感染力は、感染者1人がおよそ1.5人に広げる程度ですが、新型コロナウイルスは、1人の感染者が他の方へ平均して2~4人に広げるとされています。もしこのままウイルスの感染拡大が停止しなければ、世界人口の60%が感染し、5000万人が死亡する恐れがあります。（死亡率が1%の場合）



④ワクチンが開発中のため終息がわからない

現在、私たちはインフルエンザに対する知識の蓄積が進んでおり、季節型インフルエンザに対しては毎年ワクチンが準備され、終息時期も予想が可能となっています。しかし新型コロナウイルスに対しては、ワクチンも開発されておらず、終息時期も予測不能のままです。

米国国立衛生研究所では、今後数か月以内に新型コロナウイルスのワクチン臨床試験を開始する予定ですが、ワクチンが完成するまでは自己防衛することが重要です。

マスクの着用はもちろんのこと、石鹸と水で20秒以上の手洗いを行うことやうがいも適宜行うこと、頻りに触れる物体や物の表面をきれいに消毒するなど習慣化して行っていく必要があります。

◆インフルエンザ予防接種の重要性

冬季になると夏場に比べて風邪が流行し、発熱する方が多くなる傾向があります。いざ風邪をひいてしまうと、症状的にインフルエンザか新型コロナかは判断しにくくなります。重症化を防ぐためにも、できる予防は行っておきましょう。

※インフルエンザワクチン予防接種は予約枠が全て埋まり、予約受付を中止しております。

12月には再度ワクチン在庫予定となっています。

まだ予防接種をされていない方で、ご希望の方は11月下旬以降に当クリニックまでお問い合わせ下さい。

お薬手帳提示のお願い

他医院処方薬との重複チェック、災害時の内服確認のため、来院時は毎回お持ちください。

★お知らせ★

次回の休日当番日は 11月29日(日)です